

「越中富山お土産プロジェクト」は、富山県内の良質な物産にデザイン視点から統一感を与え、物産の集合体として富山の魅力を効果的に伝えるお土産商品群の開発を行うプロジェクト。2009年の開始以降、これまでに「幸のこわけ」、「技のこわけ」のブランドを生み出してきました。本年度は第3弾となる「美と癒し」に関する新ブランド創出に向けて取り組みました。



## 「幸」「技」に続く、富山の 新“こわけ”ブランド誕生に向けて始動



### 》「富山の売薬」をルーツに現代のライフスタイルを発信する 富山の「美と癒し」のブランドの創出へ

“富山の売薬”、雄大な自然・資源など、美やリラクゼーションに関するリソースが多く存在する富山県。コロナ禍で一層高まった健康・美容、癒しへの関心と成長産業でもあるこの分野に対し、デザインの視点から富山の「美と癒し」ブランド構築事業に取り組みました。リサーチから県内にある自然由来のリソースを活用したアイテムの展開に可能性があることが分かり、県外委員3名とのディスカッションを重ね、そうしたリソースをどのようなコンセプトとビジョンで発信していくのか、コロナ禍で変化したライフスタイルに対してどのようにアプローチしていくのかなどを検討しました。



### 》ブランドの創出に向けての課題

年々注目度を増す「美と癒し」に関する分野は商品自体の機能性だけではなく、「心身共に美しくありたい」という需要に向けて動きだしている。市場では機能面での高い安全基準の提示や充実のサービスとサポートの実施、サステナブル・フェアトレードといった環境や社会配慮など多角的な視点も取入れ、時代とともに変化する「美しさ」にフィットする展開を見せています。この中で改めて富山県がブランドを生む価値や、自社でも商品を展開している各企業が参画するメリットはどこにあるのか。商品自体をつくるだけではなく、本当に自立し継続するものづくりをするためには何が必要なのか、現実的な問題を受け止め、考える必要があると感じました。